源氏日報

番外
発行所
源氏日報
編集　広報部

発行　不定期
適時無料配布

1100年の都 平安京

時空の扉が今開く

平安京とは、794年から1869年までの間、天皇の住まいがあった都のこと。そのうち、平安京が政治の中心だった約400年間を平安時代といいます。平家物語はこの時代から始まります。784年までは平城京、それ以後10年間は長岡京が都でした。のちの平清盛による福原への遷都を除けば、明治2年(1869年)の東京への政府移転まで、およそ1100年の間、日本の首都として機能してきました。

平安京は唐の都・長安がモデルといわれています。現在の京都市に残る碁盤の目のような条坊制は、長安をまねて造られたものなのです。

当時、近隣諸国で最も力を持っていたのは唐でした。日本は遣唐使を派遣し、唐の文化や制度を学ばせていました。

朝廷の威光を示すために長安と同じ規模の都を造ろうとしますが、地理的な制約や労働力不足のため、長安の四分の一に縮小せざるをえなくなります。

とはいえ、当時の長安の人口は100万、平安京の人口はわずか10万人だったので、それでも大きすぎる規模でした。

そうした状況を鑑みて、桓武天皇は平安京の造営が難しいと判断し平安京造営中止の詔を出したのです。そのため、平安京は未完成のままとなりました。

そのため、平安京の右京は未完成のまま放置されることになります。現在の京都市を見てもわかるように、繁華街は平安京の左京部分に集中しています。

唐の都市になぞらえて、右京は長安城、左京は洛陽と呼ばれていました。長安城という呼び名は現代には残っていませんが、洛陽の方は「洛中」「洛外」といった呼び方に残っています。

都を移すのには相応の理由が必要です。平安京遷都の場合は、平城京の政情不安が主な原因でした。

かつての平城京の時代は、「青丹よし奈良の都」と謳われた栄華とは裏腹に、政権の内部では血で血を洗う権力抗争が繰り返されていました。桓武天皇自身が皇位を射止めることができたのも、義母の皇后・井上内親王とその子の皇太子・他戸親王を失脚させるという謀計あってのことだったのでした。

また、平城京に都があった頃、次第に仏教勢力が強大になり、政治に介入するようになりました。

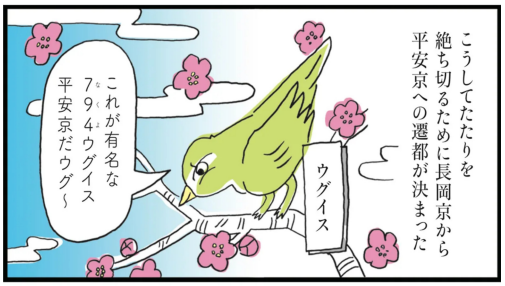
100年ほどは天武系の天皇が続いていましたが、皇位をめぐって天武系の皇族の粛清が相次いでいたこともあり、称徳天皇の後継者選びは難航しました。そういった中で、天智天皇の孫の白壁王が光仁天皇として即位したのですが、数年後には、皇后と皇太子が位をはく奪された上、不審な死を遂げるという事件が起こります。その後、平城京では瓦や石が降ってきたり、天皇の住まいである内裏に雷が落ちたりといった怪奇現象が起こり、当時の人々は皇后と皇太子の祟りだと怖れました。

このような平城京の混乱が、長岡遷都および平安遷都の背景にあったと歴史学者は言っています。

光仁天皇の子である桓武天皇は、平城京から離れて長岡京に都を移しますが、この長岡京も不運続きで、10年間しか続きませんでした。長岡京に遷ってからもそうした犠牲は後を絶えませんでした。天皇の寵臣であった造長岡宮使・藤原種継は闇夜の工事現場で暗殺され、その犯罪の責任を問われる形で天皇の実弟である皇太弟・早良親王が無惨な死に追いやられました。その後、天皇の周囲には早良親王の怨霊の影が色濃くまとわりつくことになるのです。そのひとつ、長岡京では疫病が流行し、桓武天皇の母や妃たちが亡くなる不幸が起こります。桓武天皇はそれを早良親王の祟りと捉え、長岡京に都を置くことを諦めたのです。

そうして、794年に長岡京から北東に約13km離れた平安京へ遷都しました。

それまでの都の名称は全てその場所の地名を採っていました。例えば、長岡村に造られたから「長岡京」と呼ばれた)。それに比べると、「平安京」という名称には桓武天皇の深い想いがこめられているのでした。天皇のみならず万民にとって、平安京は永遠の平和を願う都であるという願いが込められていたのです。



平安時代前期の平安京の人口は120,000人前後と推定されており、平安時代末期になると推定150,000～180,000人へと増加し左京地区に集中する構造へとなっていったことが分かっています。これは湿地帯が多い、右京地区が荒廃したためと考えられており、9世紀に入ると貴族の館は五条以北に集中しました。

平安時代にはここが文化の中心地となりました。平安時代初期は唐風文化がもてはやされていましたが、中期になると国風文化が栄え、紫式部『源氏物語』や清少納言『枕草子』に代表される文学作品や、寝殿造などの建築が発展しました。が、12世紀後半には平氏が権力をもつようになり、武士の時代へと突入していき、室町時代後期には応仁の乱によって大部分の建物が焼失してしまい、貴族たちは地方に逃げ延びることになります。

現在の京都のもとになったのは、豊臣秀吉が復興した後の都です。

今回、ここ六条公民館に時間軸と空間軸を交差させ、時空の歪みを利用して平安時代へと時間旅行を企画しました。軸の裂け目が現れるのは、月1回で6月から毎月第3木曜日の14時からです。

現地でのお世話は稲葉友昭氏が行います。

参加料は無料です。

事前申し込みも不要です。

座席には限りがあります。

時間厳守でタイムスリップしますので余裕を持ってお越し下さい。　時間酔いされる方は酔い止めを持参でお願いします。

六条公民館長